

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成27年9月9日	評価結果市町村受理日	平成27年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年10月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年度より、事業所理念「ホスピタリティケア 入居者様の思いと向き合い、思いやりを持って、感動を与えるケアを行います」を作成し、職員は日々、入居者様に向き合うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、「ひやりはっ」と「身体拘束・虐待防止」「感染症予防」委員会活動も月に一度活動報告・職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。施設周囲には山、川、海と自然豊かで1年を通して四季時折の風景を楽しむ事ができます。中庭は芝生と花壇、家庭菜園があり季節に応じて入居者様と花や野菜を植えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念は思いやり、おもてなしの気持ちをもってケアを行うホスピタリティケアにより、感動を与えるケアを行う事としている。理念についての勉強会が行われ、管理者は職員へ理念についての考え方をわかりやすく説明している。事業所は日当たりがよく眺めがよい海辺に位置している。リビング等共用空間は十分な広さがあり、利用者は穏やかに過ごしている。医師による定期診察、看護師の定期巡回などがあり、医療面でのサポート体制が万全であり、本人・家族の安心に繋がっている。また介護計画を作成する際にも医師、看護師のアドバイスを取り入れており、介護する職員の安心にもつながっている。感染症、ヒヤリハット、身体拘束・虐待防止委員会が各フロアの職員で組織され、毎月報告会を行うなど、事業所全体で高みを目指し、努力している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、事業所の理念は事業所内に掲示。また、名札の裏に携帯しており、いつでも確認できるようにしています。新人研修や年に1回の法人研修会も開催しており、理念の共有及び実践に努めています。	法人全体理念、法人の介護事業所の共通理念、事業所独自の理念があり、事業所の目に付くところに掲示している。理念に関する勉強会が定期的に行われており、利用者主体のケアに向け、話し合いが行われている。管理者は職員へ理念について、その意義や理解について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭りに参加したり、清掃活動にも参加しています。また、地域の子供たちを招待しての芋掘り体験や認知症カフェへ参加し、地域の皆様に親しんで頂けるよう努めています。	年2回の自治会の清掃活動に参加している。地域包括支援センターが定期的に行っている認知症カフェへ職員・利用者が参加し、認知症ケアを通じて地域の方と交流を行っている。事業所にある畑の芋掘りに地元の小学生、近所の子どもを招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとなり包括が主催する認知症サポーター養成講座へも参加し、地域の方へ認知症を知って頂く取組を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では運営状況だけではなく、研修や取組み、イベント等の報告を行いご意見や要望を受けようとしています。頂いた意見、要望に関しては会議等を通して必要に応じ改善を検討しています。	運営推進会議には規程のメンバーが参加している。活動報告、ヒヤリハット等の報告が行われ、運営についての意見交換では、地域の代表から事業所の利用者が散歩している時に声を掛けたいので、他事業所との区別を付けるためゼッケンをお願いしたいとの提案があり、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政センターの職員の方に参加して頂いたり、地域包括センターとは研修依頼や情報交換を行っています。	認知症カフェでの交流の他、地域包括センターからキャラバンメイトの活動として認知症サポーター養成講座での寸劇の手伝いを依頼されている。また、認知症ケアの事例や事故報告、その後の処置対応などについて検討を行うなど、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人教育や法人研修、施設内勉強会を開催しており、『身体拘束、虐待防止委員会』を中心に事例検討も行っています。	今年度は3階フロアの職員が『身体拘束、虐待防止委員会』を組織し、毎月の事例検討報告会にて報告を行っている。言葉での拘束について事例検討が多く行われている。玄関は安全上施錠しているが、見守りにて利用者の意向を把握し、必要に応じて鍵を開けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『身体拘束、虐待防止委員会』が中心となり活動報告会で注意喚起を行う等、虐待や言葉による虐待、不適切なケアを行わないような取組を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については法人内で研修会を行っています。成年後見制度の利用を希望されるご家族に対しては、医療機関とも連携を取り対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談や入居時にご家族さまには十分に契約等に関する説明を行っています。また、入居後も定期的にご家族様に連絡を取るようし、不明な点、疑問点がないか確認を取るよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『重要事項説明』に内部、外部の苦情受付の窓口を記載しており、契約の際にも必ず説明を行っています。施設受付にも意見箱を設置しています。また、面会時などでもご意見を直接頂けるような雰囲気作りも気がかけています。	利用開始の際には、外部苦情受付の説明を行っている。家族面会時には時間を作ってもらい、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを行っている。事業所に寄せられた意見、要望は書面に記録しているが、対応や経過、家族への結果報告の記録が行われていない。	対応や経過、結果報告の記録を取ることで、どう運営に反映されたかを検討し、今後の事業所運営に活かしていく事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に各フロアはケアや業務に対する意見や提案を上げるように指導しています。提案に対してはカンファを開催し、ケアや業務に反映しています。また、定期的に職員会議を開催し、管理者、職員の意見交換を行っています。	職員は日々の業務の中で、様々な意見をフロアリーダーに伝えている。リーダー会議にて上がった意見を検討し、必要物品の購入の検討から利用者のケアに関する事など運営に反映させている。職員の業務に対する悩みなどを聞き、解決へ向けてのアドバイスを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。給与体系についても資格、能力により決定しており、勤務時間も労規を遵守するようシフト作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内では月1回の研修会を行っており、参加出来なかった職員に対しては資料を渡すなどしOJT教育を行っています。また、外部の研修も希望があれば参加できる機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会に参加しており、ブロック会や全体研修などに参加し、同業者の方々との交流と意見交換を行っています。また、同一法人内でも夏祭りや研修会等にて交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人様、ご家族様の規模をお聞きし、ケアプランに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から相談に応じ方針、事例などを説明し、ご家族様との信頼関係を築いていくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や担当ケアマネージャーからの情報を元にケアプランを作成しています。その後、1か月間のモニタリングを行い、本人さまの『今』必要なサービス計画をカンファにて話し合い作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームの理念『入居者さまの想いと向き合い、思いやりをもって感動を与えるケアを行います』を職員ひとり一人が実践するよう努めています。また、家庭的な雰囲気を大切にし、安心した生活を送って頂けるよう信頼関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて本人様の近況やケアの問題点、リスクについても相談させて頂き、意見や要望をお聞きし、情報共有を行うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力のもと、外出や外食を行って頂いています。また、お知り合いや友人の方も定期的に面会いただくなど、面会に行きやすい雰囲気作りに努めています。	利用開始前に家族にヒヤリングを行い、生活歴など細かい情報を得ている。運営推進会議に参加した地元の民生委員が利用者の知り合いとの事で、時間を作って話すなど交流している。花や野菜作りが好きな利用者へプランターでの栽培の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のレクリエーション等を通じ、入居者同士のコミュニケーションの支援を行っています。また、関係性を考慮して、食事の時の座席等の配慮を行い、落ち着いて生活を送れる環境整備に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には面会に行くようにしています。また、退居となった場合でも希望があれば相談や情報提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や言葉、動きの中からその方の想いの把握に努めるようにしています。ケアプランにギャップを感じた場合は都度、カンファを行い、現状に合ったケアの提供を行うようにしています。	利用者が意向を表出した時は、利用者と一対一で居室にて話を聞くように努めている。意向の把握が困難な利用者は家族の協力を得たり、微妙な表情の変化から何が本人本位であるかを検討し把握している。ボールを使ったレクリエーションなどでも反応がある場合があり、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や担当ケアマネージャーから、本人様の生活歴等をお聞きし、情報シートを作成。入居前にカンファにて職員に周知しています。また、情報シートは個人カルテにはさみ、いつでも確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録から、その方の生活リズムや問題点を把握するようにしています。また、定期的にはアセスメントシートを作成し、その方の能力や意欲についても職員間で話し合うようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でモニタリングを行い、現状の課題やあり方についてカンファを行っています。時には医療連携Nsやご家族様にも参加して頂いたり相談を行い、意見・要望をお聞きし、ひとり一人に適した介護計画の作成に努めています。	計画作成担当者は、本人・家族の要望、医療連携の看護師、訪問診療の医師などのアドバイスを取り入れた介護計画を作成している。またモニタリングの結果を受け職員意見を反映している。新しい介護計画は家族に交付され同意を得ている。状態が変化したときは随時の見直しが行われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は日々の状態だけではなく、ケアプランの内容と連動するようしており、実践状況や問題点を職員間で情報共有出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にあわせて、ドライブ、ピクニック、散歩、買い物などを行っています。また、要望に対する検討を行い支援可能かどうか検討し、部分的にでも対応できる取り組みを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設や他ユニットへの訪問などでユニット以外の方々と交流をもって頂き、日頃の暮らしを楽しんで頂けるよう支援しています。近隣の野菜屋さんへ買い物へ行き入居者様が交流できる環境を作っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年から訪問診察を受けており、ゆっくりとした生活の中で診察を受けています。急な体調変化時でもかかりつけ医に相談し、必要に応じて協力医療機関へ受診・治療を行って頂いています。歯科往診もあり、眼科・皮膚科等の受診はご家族と相談し、近隣の医療機関で受診をしています。	月2回程度、医師の訪問診察がある。以前からのかかりつけ医など本人・家族が望む医療機関への受診支援を行っている。協力医療機関へ移行する場合は本人・家族の同意を得ている。協力医療機関は母体法人の病院であり、緊急時、夜間対応の医師、看護師が常駐している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に医療連携の看護師に訪問して頂き、入居者さまの状態や日々の健康管理等について情報交換を行っています。また、施設で出来る範囲での対応を教えてくださいしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関という事もあり、入退院時には密に情報交換を行っています。また、病院は『施設生活を長く行ってもらおう』という方針でもあり、施設生活に影響のない範囲で早期に退院させてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明にてご家族には話を行い、方針に対してご理解頂いています。日頃からご家族とはケアだけではなく体調や診察等に関しても連絡を取るようしており、主治医にも定期的に病状説明をお願いするようにしています。	事業所の重度化した場合の対応に係る指針は、契約時に説明している。終末期、看取りケアの勉強会、研修会参加はあまり行われていない。事業所の職員は看取りケアの研修、勉強会の必要性があると考えている。	終末期、看取りケアについて、医療連携体制の整備の確認とともに、職員が十分に支援できる体制づくりを期待したい。そのため勉強会、研修会に参加することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアル、連絡網を作成しています。医療連携の看護師や、消防署職員に救命救急の研修をお願いしたり、AEDの講習をメーカーに依頼し職員が研修を受けられる機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回、総合避難訓練を行い夜間想定・消防立ち合いも行っています。毎月の訓練も計画的に行っています。訓練時には地元の消防団の方にも声をかけ、参加して頂くようにしています。	年2回の総合的な災害時の避難訓練を行い、長崎市で決められている項目の訓練は計画に沿って毎月行っている。夜間想定火災時避難訓練も行っている。地元消防団や近隣の介護事業所と災害時について話し合い、協力体制を取っている。非常時持ち出し品は整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内での排泄等ケア時や、入浴介助時は扉を確実に閉めるように徹底しています。言葉かけについても、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを行うよう取り組んでいます。また、夜間も居室のドアを閉め、ゆっくりとした環境の中で休んで頂くような取組を行っています。	プライバシーに十分配慮し、排泄ケア時や入浴時には必ず戸を閉め、人目に付かないよう配慮している。トイレ誘導などはさりげなく行い、失禁時等ではあからさまな声掛けをせず、他人に気付かれないようケアを行っている。個人情報書類等は事業所の所定の場所にて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケア時にはケア内容の説明、同意を得て行うよう指導しています。また、起床、食事、入浴等日常生活の中でも常に本人の意思を確認するようにし、施設、職員の都合に合わせない様に徹底しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、ひとり一人のペースを大事にした支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容室の方が訪問してくれていますので、希望の方には散髪をして頂いています。また、洋服も本人に選んで頂いたり、女性の入居者の方では化粧品等を使用されている方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態に関係なく、彩りを考えて盛り付けるようにしています。また、体調や気分を見ながら、食材の下ごしらえ、配膳、下膳、皿洗い、テーブル拭き等を手伝って頂いています。	利用者は簡単な料理の下ごしらえや台ふき、箸の配膳、など職員と一緒に準備を行っている。盛りつけはおいしく見えるように食事形態に関係なく工夫している。正月、節句などは季節の特別な食事が用意され、ピクニックなどの行事の際は弁当を用意し、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取された食事量が分かるように記録に残し、定期的に水分補給をして頂くように心がけています。また、お茶やお水をあまり飲みたがらない方には、ご家族や医療機関と相談し、清涼飲料水を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診があり口腔内の確認を行って頂き、ケアの指導や情報交換を行い、ひとり一人にあわせてケアを行っています。また、週に3回、義歯の洗浄を行い、(場合によっては都度洗浄したりする事もある)口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は基本的におむつ等を使用しないケアを方針とし、排泄パターンや日々の記録から失敗をしない取組や、ケアカンファを行いオムツを少なくしていくケアを話し合い実践しています。	排泄チェックシートを活用し、適時に声掛け、トイレでの排泄支援を行うことによって、排泄の自立支援を行っている。声掛けを行う事によって、状況が改善し、おむつ使用が少なくなった事例がある。職員はおむつ使用量や当て方を検討し、本人、家族の負担減になるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や適度な運動を行って頂くよう心掛けています。便秘症の方には、医療機関と連携し情報交換や対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めています、本人の希望があればいつでも入浴できるようにしています。入浴の順番もひとり一人に確認し、本人の希望に添えるよう支援しています。	基本的な入浴日は週3日と決まっているが、別のフロアでは異なった日に入浴支援を行っているため、本人の希望があればいつでも入浴できる。同性による介助を行い、車椅子の利用者は職員が2人で介助を行っている。全ての利用者に湯船に浸かれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその日の体調や気分に合わせて、休息を取ってもらうよう支援しています。また、夜間十分に睡眠をとって頂けるよう生活のリズムを整えたり、睡眠時の室温や照明など、本人の希望に合わせてるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに服用されている薬の説明書きをさめており、職員がいつでも確認できるようにしています。日々の記録を通して、症状の変化等があれば医療連携のナースや医療機関に報告し対応するよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の能力に応じて、血洗いや洗濯、掃除、食事の下ごしらえ、農作業、野菜苗の購入へ行くなどのお手伝いをお願いしています。また音楽好きの方へはギターなど本人の希望があればご家族様と相談し、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方がいらっしゃれば、職員と庭や海辺の散歩道に出たり、季節での花見やピクニック等企画しています。ご家族様にも、外出等を気軽に行えるような環境や雰囲気作りに努めています。	花見、ピクニック、法人の夏祭り、足湯へ出かける等行事の際は、車椅子の利用者も含めて全員外出するよう努めている。天気が良い日などは散歩の声掛けを行い、外出している。利用者の希望により、野菜の苗を買いに行くなど買い物支援時の外出も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方で要望があれば、ご家族様と相談を行い、小金額を持って頂いており、お出かけの際などに買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引きたい方にはご家族と相談し、引いて頂いています。季節ごとのお手紙や要望があった際にはお手紙を書いて頂いたり、職員が代筆をおこなったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として明るく、景色が良く見え天候の変化や季節を感じる事が出来ます。照明や温度、湿度にも心掛けおり、家具の配置にも配慮しています。	リビングなどの共用空間には季節ごとの花や飾り物があり、季節感を出すよう工夫していることが確認できる。光、音などは適度なものとなるよう利用者に意向を尋ねながら調整している。リビングの掃除と換気は毎日行っており、入浴支援後の浴室は丁寧に清掃し清潔を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の居室、リビング、他フロア、屋外と入居者様のその時の気分で自由に過ごして頂けるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物でない限り、持ち込みの制限は行っていません。ご家族様には入居の際に、これまで本人が使用していたものや、思い出の品、愛着のあるもの等を少しでも多く持ってきて頂くようお願いしています。	各居室は写真やタンス、仏具など利用者の馴染みのものが持ち込まれており、居心地よく過ごせるように配慮されている。衣類の整理などは利用者と職員と一緒にを行い、洗濯物を整理する利用者もいる。居室の掃除は毎日行っており快適な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっていますので、車イスの方や歩行不安な方でも安全に移動できるようになっています。また、イス、ソファ、家具などのレイアウトも定期的に見直しを行うようにしています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 1F		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成27年9月7	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年度より、事業所理念「ホスピタリティケア 入居者様の思いと向き合い、思いやりを持って、感動を与えるケアを行います」を作成し、職員は日々、入居者様に向き合うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、「ひやりはっと」「身体拘束・虐待防止」「感染症予防」委員会活動も月に一度活動報告・職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。施設周囲には山、川、海と自然豊かで1年を通して四季時折の風景を楽しむ事ができます。中庭は芝生と花壇、家庭菜園があり季節に応じて入居者様と花や野菜を植えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に法人理念の「楽しく・優しく・元気よく」を意識しながら毎日のケアを行うように心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生を招待しての芋掘りを行ったり、地域の夏祭りや認知症カフェへの参加を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の方(認知症サポーターリーダー)に参加して頂いています。また、清掃活動なども行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、家族や地域の住民の方にイベントや取組みなどを報告し、ご意見・要望を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方や行政センターの方に運営推進会議に参加して頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、職員ひとり一人が身体拘束を行わないようにしています。言葉による拘束など専門的な考え方を浸透させるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動で「身体拘束・虐待防止委員会」を立ち上げ委員を中心に啓発活動に努めたり、施設内・法人の勉強会へも参加を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の勉強会に参加し、学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、それぞれ十分に説明を行い、ご家族に納得・同意の上署名・捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意しています。入居者やご家族が無記名にて記入して頂けるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に各フロアはケアや業務に対する意見や提案を上げるように指導しています。提案に対してはカンファを開催し、ケアや業務に反映しています。また、定期的に全体会議を開催し、管理者、職員の意見交換を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。給与体系についても資格、能力により決定しており、勤務時間も労規を遵守するようシフト作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内では月1回の研修会を行っています。また、外部の研修も希望があれば参加できる機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会に入会しており、ブロック会や全体研修などに参加し、同業者の方々との交流と意見交換を行っています。また、同一法人内でも夏祭りや研修会等にて交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に本人様の要望や不安等をお聞きし、プランの作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っている事、不安、要望をお聞きし、プランの作成を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際に得た情報を元にサービス内容の検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持って接するようにしています。また、掃除や洗濯など一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や電話連絡で近況等についてお話をする時間を取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さま協力のもと、外出・外食を行うようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に気をつけひとり一人にあったレクリエーションを行いました、茶話会等では職員が間に入りながら支援していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には面会に行くようにしています。また、退居となった場合でも希望があれば相談や情報提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情、言葉、動きをしっかりと観察し、入居者様の気持ちになって考えその場に寄り添い言葉掛けを行っている。問題点は職員間で話し合うようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さまからその方の仕事、生活歴、趣味や癖などの情報を教えて頂き、生活情報シートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を記入し、一人ひとりの状態の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、ケアマネージャー、必要に応じて管理者、看護師も参加し、定期的にモニタリングを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の気づきや実践状況の結果を記入し、今後のケアや情報の共有、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族さまの状況、要望に応じ、ドライブや買い物などに出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域清掃活動や地域のお祭りに参加しています。今年度から認知症カフェへ参加し交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年度から訪問診察を受けており、日々のゆとりとした生活の中で診察を受けています。急な体調変化時でもかかりつけ医に相談し、必要に応じて協力医療機関へ受診・治療を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携のNsにバイタルサインやスキンチェック等の情報を伝え、必要に応じて相談や指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関という事もあり、入退院時には密に情報交換を行っています。また、病院は『施設生活を長く行ってもらおう』という方針でもあり、施設生活に影響のない範囲で早期に退院させてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明にてご家族さまには話をし、方針に対してご理解頂いています。日頃からご家族とはケアだけではなく体調や診察等に関しても連絡を取るようしており、主治医にも定期的に病状説明をお願いするようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加や年2回の避難訓練に合わせて訓練を行うようにしています。AEDの配置もされている為、定期的に講習も受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、避難訓練を行っています。日中想定では消防署立ち合いのもと訓練を行い、消火器取扱いや避難時の指導を頂きました。また、地域消防団の方へも訓練への参加をお願いします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による拘束・抑制がないように勉強会を行ったり誇りやプライバシーを損ねないように(排泄面では特に)言葉かけ誘導を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さまが思いや希望を言えるような接し方を心掛けています。職員主導にならないよう、自己決定できるような言葉掛けに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の生活の流れを把握し、その方にあつた過ごし方を送って頂けるような支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容室の方がホームに来られ希望する入居者さまの散髪を行ってもらっています。また、毎日の洋服も本人に選んでいただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳など体調を確認しながら一緒に行っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が分かるように記録を残し、定期的に水分補給が出来るようお茶の時間等を作っています。またひとり一人に合わせて食事形態や量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。義歯については夕食後定期的にポリデント使用し消毒を行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さまの排泄パターンを把握し排泄の失敗を少なくするよう時間でのトイレ誘導を行っています。また、おむつの使用、当て方などを職員で話し合い使用量の最適化に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や適度な運動を行うよう心掛け、排泄確認を行っています。便秘症の方は主治医へ報告・相談し下剤の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっていますが、必ずどこかのフロアが入浴を行っていますので希望があればいつでも入浴が出来るようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分に睡眠をとってもらえるよう、生活のリズムを整えたり、睡眠時の居室の温度や照明など、本人の希望に合わせるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さまの個人カルテに服用されている薬の説明書きをはさめており、日々、職員は説明書きに目を通し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の能力に応じて、フロア内の掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ等のお手伝いをして頂いたり、折り紙、塗り絵、畑の農作業、花壇の手入れ、カラオケなどを進めるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭への散歩やご家族さまに協力を得ながら外出して頂いています。また、季節ごとにピクニックなどを企画しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方で要望があればご家族と相談し、お小使い程度の額を持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をかけて頂いています。また、お手紙が来た場合など、お返事を書く支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、テーブル、フロア内に四季折々の飾りや花を置き、居心地の良い空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者さまの居室、フロア内、屋外とその時の気分で自由に過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さまに出来る限り本人さまの馴染みのある物を持って来て頂くようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーとなっており、車イスの方でも自由に移動ができるようになっています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 2F		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成27年9月8	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年度より、事業所理念「ホスピタリティケア 入居者様の思いと向き合い、思いやりを持って、感動を与えるケアを行います」を作成し、職員は日々、入居者様に向き合うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、「ひやりはっ」と「身体拘束・虐待防止」「感染症予防」委員会活動も月に一度活動報告・職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。施設周囲には山、川、海と自然豊かで1年を通して四季時折の風景を楽しむ事ができます。中庭は芝生と花壇、家庭菜園があり季節に応じて入居者様と花や野菜を植えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内の目に付く場所に掲示し、施設職員全員で理念の実践に取り組んでいます。勉強会を開催し、理念の意味やその本意について意識の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の小学校の生徒さんを招いて芋掘りを行っています。また「子供110番の家」になり児童が安心して登下校出来るよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域住民の方に参加して頂いており、その中で意見や要望に応じながらご理解を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を行い、ご家族さまや地域住民の方など外部の方に運営状況やケアの取り組み、イベント等を報告し、意見交換を行いより良いサービスの提供を目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度より、運営推進会議に認知症サポートリーダーの方に参加をいただいています。会議で事業所の取り組み等を伝え、ご理解を得ています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉による拘束も行わないように会議や勉強会にて話し合い、日頃のケアの中で注意すべき点を挙げて全職員把握し徹底するように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の勉強会・講習会に参加し知識、意識を深め虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、日常生活自立支援制度や成年後見制度について学ぶようになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、それぞれ十分に説明を行い、ご家族に納得、同意の上捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご家族さまが面会に来られたには話しやすい雰囲気作りを心掛けています。また、事務所前に苦情受付箱を設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に各フロアはケアや業務に対する意見や提案を上げるように指導しています。提案に対してはカンファを開催し、ケアや業務に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。給与体系についても資格、能力により決定しており、勤務時間も労規を遵守するようシフト作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内では月1回の研修会を行っており、参加出来なかった職員に対しては資料を渡すなどしOJT教育を行っています。また、外部の研修も希望があれば参加できる機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会に入会しており、ブロック会や全体研修などに参加し同業者の方々との交流と意見交換を行っています。また、法人内でも夏祭りや研修会等にて交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人・ご家族さまの要望をお聞きし、介護計画に取り入れるようにしています。入居後も1週間程度モニタリングを行い、ケアカンファを行うようにします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に当事業所の介護理念やケア方針をご説明しています。また、状況に応じて面会時等にご家族さまと意見交換を行い信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や担当ケアマネージャーからの情報を元に導入時のケアプランを作成しています。その後、1か月間のモニタリングを行い、本人さまに必要なサービス計画をカンファにて話し合い作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方は人生の先輩であり、尊敬の気持ちをもって信頼の関係を大切に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は近況についてお話する時間を取るようになっています。また、遠方にお住まいのご家族さまには電話で近況連絡を行い連携を図るようになっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さまや知人の方に協力を得て、本人の希望があれば、今まで住んでいた場所や友人、知人に会いに連れて行って頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考慮し、食事の座席を決めたり、レクリエーションでは職員が間に入り入居者同士の関係作りを支援していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期間の入院となった場合などは、職員が交代で面会に行くようにしています。また、サービス終了しても希望があれば相談や情報提供を行うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情・言葉・動きをしっかりと観察し、その中で思いや問題点は職員同士で話し合ったりケアカンファを行い、本人の思いに近づけるように心がけ取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さまと担当ケアマネージャーから、その方の生活歴、仕事、趣味などを教えて頂き、生活情報シートを作成してその方にあつた生活サイクルの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者さまひとり一人の生活のリズムを大切にして、その方に適した対応を話し合い把握しながら、安心して過ごしていただけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で介護計画に沿っているか、目標達成できているかモニタリングし、確認している。また、面会時などにご家族さまを含めたモニタリングを開催し計画作成に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録に介護計画の実践状況や結果、気づきを記入しており、情報の共有や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画では対応できない日常の変化や要望等ケアの追加や変更に対してはケアカンファを行い対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他のユニットへの訪問などでユニット以外の方々と交流を持って頂いたり、夏祭りや芋ほり等で地域の方や小学生と交流する場を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年度から訪問診察を受けており、日々のゆつくりとした生活の中で診察を受けています。急な体調変化時でもかかりつけ医に相談し、必要に応じて協力医療機関へ受診・治療を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、医療連携の看護師に来て頂いています。入居者さまの状態を診て頂き、日々のバイタルサインの変化など情報交換を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の変化があった場合にはご家族さまに連絡し、主治医と相談して方針を決定しています。また、定期的に医療機関に病状説明をお願いするようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアル、連絡網を作成しており必要に応じて指導、訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回の避難訓練を行い、夜間想定では消防署立ち合いのもと訓練を行い、消火器取扱いや通報方法など定期的に指導して頂いています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけによる拘束・抑制がないよう誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけや誘導に注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人さまの希望があれば必要な物品購入や外出を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっていますが、ひとり一人のペースに合わせて支援しており、レクリエーションなどを行い楽しく過ごして頂けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容室の方が訪問して下さっており、希望者は散髪をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、下膳など体調を見ながら職員と一緒に頑張っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録に残しており、水分補給は不足しないよう心掛けています。お茶などが嫌いな方はご家族に相談し、清涼飲料水を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとり一人の口腔内状態に合わせて口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。義歯については夕食後、定期的にポリドント液に浸し殺菌消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し、本人の動き、時間での誘導を行い、失敗を少なくするよう努めパットの当て方や職員間で話し合いおむつの使用量を最小限にするように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を行って頂くように心がけたり、適度な運動や腹部マッサージなどで対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっていますが、どこかのフロアが入浴を行っているので希望があればいつでも入浴できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のその日の体調に合わせて休息をとって頂いています。生活のリズムを整えるよう支援を行い、十分な睡眠をとっていただく様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さまの個人カルテに服用している薬の説明書きをはさめており、いつでも確認できるようにしています。医療機関と連携を取り、情報共有行い確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の能力に応じて洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、掃除などのお手伝いを行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩に行きたい方がいれば職員と一緒に庭に出たり、季節での花見やピクニックを企画し、実行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方であれば、小金額を持って頂いており、外出の際に買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引きたい方にはご家族と相談し引いて頂いています。ホームにかかってきた場合にはゆっくりとお話して頂くよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、フロア内に四季折々の飾り物などで、居心地の良い空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者さまの居室、フロア内、屋外とその時の気分で過ごして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願いし本人様の馴染みのあるものを持って来て頂き安心して頂けるよう配慮を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、車イスの方でも自由に移動していただけるようにしています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 3F		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成27年9月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年度より、事業所理念「ホスピタリティケア 入居者様の思いと向き合い、思いやりを持って、感動を与えるケアを行います」を作成し、職員は日々、入居者様に向き合うケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、入居者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、「ひやりはっと」「身体拘束・虐待防止」「感染症予防」委員会活動も月に一度活動報告・職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。施設周囲には山、川、海と自然豊かで1年を通して四季時折の風景を楽しむ事ができます。中庭は芝生と花壇、家庭菜園があり季節に応じて入居者様と花や野菜を植えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を意識し、日々のケア時での実践を行うよう意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生を招待しての芋掘りや地域の夏祭り、今年より認知症カフェへ参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所周辺の清掃活動を行ったり、運営推進会議に地域住民の方に参加して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を行い、ご家族さまや地域の住民の方々にイベントや取り組みなどを報告し、ご意見、要望を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方や行政センターの方に運営推進会議に参加して頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より3Fフロア全職員が「身体拘束・虐待防止委員会」の委員となり活動を行っています。毎月1回活動報告会で事例を報告したり、言葉による拘束など行わない様専門的な考え方を浸透させるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加したり、月に1回事例をあげ職員間で話し合い虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や外部の研修に参加したり、職員間で話し合いの場を多く取り入れるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、それぞれ十分に説明を行い、ご家族さまに納得、同意の上捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時とうご家族さまと会話する時間を取ったり、玄関に意見箱を設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを通じ、業務改善の提案を聞き、管理者に相談を行い入居者様がこれまで以上に安全で快適に過ごせるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。給与体系についても資格、能力により決定しており、勤務時間も労規を遵守するようシフト作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内では月1回の研修会を行っており、参加出来なかった職員に対しては資料を渡すなどしOJT教育を行っています。また、外部の研修も希望があれば参加できる機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会に入会しており、ブロック会や全体研修などに参加し、同業者の方々との交流と意見交換を行っています。また、同一法人内でも夏祭りや研修会等にて交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人・ご家族の要望をお聞きし、介護計画に取り入れるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際の介護を見て頂いたり、状況に応じて面会して頂き、ご家族さまとの信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の要望をお聞きし、ケアプランに取り入れています。また状況に応じて面会時や電話連絡にてお話しする時間を取るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活をして頂けるよう、出来る事は行って頂き、出来ない事は職員と一緒に出来るよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで現状について少しでもお話しする時間を取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、外出・外食される入居者さまもいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら関係の改善に努めており、会話の橋渡しなど友好的な関係作りを支援していくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には職員が交代で面会に行くようにしています。また、必要に応じて情報提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の思いの訴えに傾聴する姿勢を大事にしており職員間で思いの共有を行い必要によって管理者、ケアマネージャーとの連携を行いモニタリングやケアカンファを行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、担当ケアマネージャーから本人様の過去の仕事や趣味、癖などを教えて頂き、情報シートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を記入し、ひとり一人の状態の把握に努め、その方にあったケアを行うようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員、ケアマネージャー、管理者、必要に応じて医療連携ナースも参加しモニタリングを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態や行動、会話などを個人カルテに記録し、職員間での情報共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や要望に合わせて散歩、ピクニック、地域行事への参加などを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、施設周囲の清掃活動を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年度から訪問診察を受けており、日々のゆっくりとした生活の中で診察を受けています。急な体調変化時でもかかりつけ医に相談し、必要に応じて協力医療機関へ受診・治療を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に定期的に来て頂き、入居者さまの現状やバイタルサインの変化等を報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関という事もあり、入退院時には密に情報交換を行っています。また、病院は『施設生活を長く行ってもらおう』という方針でもあり、施設生活に影響のない範囲で早期に退院させてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明にてご家族には話を行い、方針に対してご理解頂いています。日頃からご家族とはケアだけではなく体調や診察等に関しても連絡を取るようになり、主治医にも定期的に病状説明をお願いするようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルや勉強会を通じて訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回の避難訓練を行い、訓練では消防署立ち合いのもと訓練を行い、消火器取扱いや通報方法など定期的に指導して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛けやケアを行っており、プライバシーへは十分注意するよう職員間で話し合いを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人さまの希望があれば必要な物品購入や外出を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりとした雰囲気の中で生活してただけるようひとり一人のペースに合わせて支援しており、レクリエーションなどを行い楽しく過ごして頂けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容室の方が訪問して下さっており、希望者は散髪をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の体調を確認し、調理の準備や軽作業を一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録に残しており、水分補給は不足しないよう心掛けています。お茶などが嫌いな方はご家族に相談し、清涼飲料水を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人に合わせて口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。また、歯科往診もあり定期的に歯科との連携も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴え時には速やかにケアを行い時間での誘導と併用して排泄の失敗を減らせるよう努めている。また、個々に合わせて動作介助を行っており、自立動作の確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を行って頂くように心がけたり、適度な運動や腹部マッサージなどで対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望に合わせて入浴を行っていただいています。また、日ごとで別のフロアが入浴を行っているので、希望があればいつでも入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のその日の体調に合わせて休息をとって頂いています。生活のリズムを整えるよう支援を行い、十分な睡眠をとっていただく様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さまの個人カルテに服用している薬の説明書きをはさめており、いつでも確認できるようにしています。医療機関と連携を取り、情報共有行い確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の能力に応じて洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、掃除などのお手伝いを行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩に行きたい方がいれば職員と一緒に庭や、海辺通りの散歩へ行ったり季節での行事を企画したり認知症カフェへ参加も行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方であれば、小金額を持って頂いており、外出の際に買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引きたい方にはご家族さまと相談し引いて頂いています。ホームにかかってきた場合にはゆっくりとお話して頂くよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を入居者さまと一緒に飾ったり、季節ごとの室温調整(冷房・暖房・加湿等)に注意し、環境管理に注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者さまの居室、フロア内、屋外とその時の気分で過ぎして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の片付けは本人さまと一緒にを行い、環境整備に努めています。また、ご家族さまに協力していただき、使い慣れたものを持参していただき住みやすい環境を作るよう気掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、車イスの方でも自由に移動していただけるようにしています。		